

戦争をめぐるパブリックメモリーの創出
—冷戦期を作った大戦をめぐる—

2015年2月7日（土）
於 国立歴史民俗博物館 第3会議室

博物館は、パブリックメモリーの創出においてきわめて重要な役割を担っている。しかしながら、日本におけるアジア・太平洋戦争や、ドイツにおけるナチス・ドイツならびに第一次世界大戦といった、いわゆる歴史における「負」の側面に関する歴史叙述を、公共性の高い展示という形で表現することには、多様な困難を抱えざるを得ない。そうした困難は、しばしば、展示を通じてどう「乗り越える」のか、あるいは「乗り越えた」のか、という形で語られることがある。しかし重要なのは、むしろ「乗り越えることができていない」ことは何かという点をも射程に収めることである。つまり、「乗り越えた」ことと、「乗り越えることができていないこと」を重ね合わせた時に析出される、表現上／研究上のプロブレマティークを、社会・政治・アカデミズムの動向のなかで捉え直し、歴史に向き合うための新たな視点を創出することへとつなげねばならない。そうした際に重要になるのは、一定の国・地域・社会の内部の緊張関係のなかで議論を深めていくことのみならず、異なる社会的コンテキストとの比較において新たな手がかりを発見するとともに、そもそもの歴史叙述の立脚点そのものを問い直そうとする営みである。

今回は、第一次世界大戦、ならびにナチス・ドイツを視野に入れた論題を設定する。ドイツにおいては、いずれもパブリックメモリーの創出において困難を抱えるテーマである。それらは冷戦期とドイツ再統一を経た今日においても、歴史認識を問う上で重要であり続けている。展示を通じて、そうした様相がどのように作られ、そして変化しているのかを検討する。

スケジュール（案）

- 13:00 開会挨拶・趣旨説明
- 13:30～14:30 Arnulf Scriba（ドイツ歴史博物館）「現代ドイツにおける第一次大戦展示——軍事的視点からメンタリティー・日常性・占領の視点へ」
- 14:30～15:30 Dorlis Blume（ドイツ歴史博物館）「論争的(controversial)なテーマの展示、論争的な反応の克服——企画展示「ヒトラーとドイツ人；国家と犯罪（2010年）」の経験から」
- 15:30～16:00 休憩
- 16:00～16:40 コメント（荒川章二・原山浩介）（変更の可能性あり）
- 16:40～17:30 討論
- 17:30～17:45 総括

※報告は英語で行うこととし、事前に資料を配付します。また質疑応答は逐次通訳となります。

※本研究会は、本館国際交流事業、ならびに本館共同研究「戦時／災害と生活世界の関わりに関する総合的研究」「対外関係・交流史を歴史展示で表現するための実践的研究—19世紀を中心とする対米および対独との関係・交流を展示で表現する試み—」の合同研究会です。